住井すゑとその文学の里（五十）

―牛久沼のほとり―

牛久市文化財保護審議委員　栗原　功

小川芋銭が描いた河童の絵の碑
―犬田卯の発案による建碑―

牛久沼畔の高台、城中町の牛久藩陣屋跡の一角に河童の碑が建っている。

河童の碑は、犬田卯の発案で、小川芋銭の芸術と人柄を敬慕する人々の手によって昭和27年（1952年）5月に建てられた。

河童の碑の表には、芋銭が描いた河童の絵と、芋銭直筆の漢字七文字が彫られている。

河童は少し背を丸めひざを曲げて座っている絵だ。

漢字七文字は『誰織　古人画龍心』としたためられている。

『誰織　古人画龍心』は、『たれかしる　こじんりゅうしんをえがく』と読める。

古人とは、誰のことを指しているのかというと、中国古代、春秋・戦国時代（日本では縄文時代晩期）の楚の国の龍を描く名人葉公（※）のことである。

「龍」は、中国古代の神秘的な力を持つ想像上の動物で、深い水中に潜み、雲を呼んで天に昇ると信じられていた。龍は晴天の日には天へは昇らない。雲に乗って昇るとき初めてその勢いを得ることから、〝龍の雲を得たるがごとし〟といわれている。

一方の「河童」は、〝かわわらわ〟を約したもので、別に「河太郎」、「がたろ」とも呼ばれる。川や池など水中にすむとされている小童の形をした動物、頭頂にへこみがあり、その中に水をたたえている間は、陸上に上がっても力が強く、しばしば人間に相撲を挑み、また馬などを水中に引きずり込むことがあるとして恐れられる。その説話は全国にわたって聞かれ、所によって猿猴（てながざる）や河獺と混同して語られる。もともと水神であったものが、信仰の零落によって妖怪化したものと解せられ、近世にはおおむね戯画化されて取り扱われている。

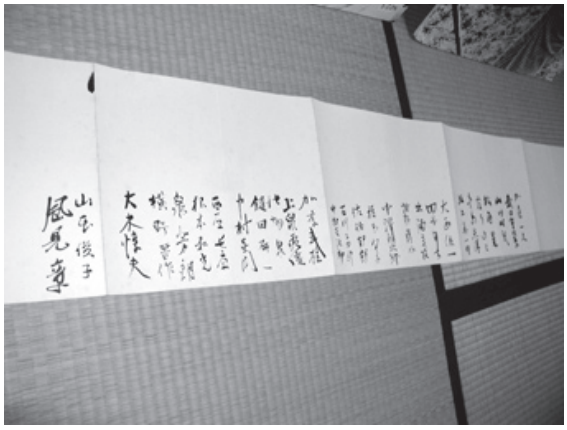
いずれにしても芋銭はその著『俳画の描き方』の『河童の宿』と題する文中に、龍を描く葉公と、河童を描く自分とを比ゆして書いているので全文を記してみた。

―或世紀までは存在していたと云う。居た居ないは別として、幼少の頃から河童が好きで描いた。然し葉公の龍ではないが、私は描いたり想像したりしている河童が好きで、仮りに本物の河童が出て来て、私が本とうの河童だよと顔を突き出された時、葉公先生のように目を廻さないまでも、歓迎することは聊か躊躇せざるを得ない。されば私の愛する河童は絵の河童で、実物ではないのです。―

河童の碑

河童の碑は、小川家へ、池田龍一、犬田卯、飯野逸平、小林巣居人、篠目篤、西山謙二、吉井忠、加藤鎮雄らが連署した書面をもって贈呈されている。

※魯の国の生まれで儒学を興した孔子（紀元前551年～479年在世）もほぼ同時代の人である。



河童の碑除幕式に出席した人々の記録―犬田家所蔵。風見章は犬田家と親交が深く、昭和5年（1930年）以来衆議院議員選挙で通算9回当選。第一次近衛内閣の書記官長と第二次近衛内閣の司法相を歴任している。